

平成 29 年度・事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 カリタス釜石

1 事業の成果

特定非営利活動に係る事業

■概況

昨年、震災から七回忌を迎えた事もあり、被災者、ご遺族の中でどこか一区切りをつけた様に思える部分が見えた。お茶っこサロンやイベントの際、参加者の話には 7 年前の震災当日の体験談や、それからの日々のお話が話題に上がることが増えた。避難所での生活や支援物資の話や、笑いながら話している姿が、仮設住宅、復興住宅どちらでも、前年以上に見られた。

ハード・ソフト両面から見て、今年度より仮設住宅の入居期限が明白になった中で、被災者は、復興住宅や再建した自宅への転居が一段と進んでいる。しかしながら、転居したことにより、これまで団地内で築き上げたコミュニティは消失。新たな生活の地で、また一から周囲と交流を持つのは大変な事だと感じる。更には、仮設住宅からの転居が進むことで、仮設住宅へ残る住民の不安な声も聞く。未だ、移転先が決まらない住民もおり、空室が大幅に増えている中で、取り残され感という大きな不安や寂しさを持っている。このように孤立を招きやすい状況は、以前より懸念されていたが、今後もサロン活動やつながり活動を通じて、住民の方々への寄り添いが重要であると強く感じる。

■主な活動内容

【サロン活動】

サロン活動実績（仮設住宅談話室、地域集会所、復興住宅集会所等でのサロン活動）

サロン場所（実施主体）	通算（平成 29 年度）		
	開催回数	受益者数	ボランティア数
ふいりあ（カリタス釜石）	310 回	3,719 人	580 人
仮設住宅（釜石市社協生活ご安心センター）	116 回	747 人	258 人
仮設住宅（自治会、住民主体）・日向みなし仮設集会所	31 回	446 人	67 人
復興公営住宅集会所	54 回	370 人	201 人
計	511 回	5,282 人	1,106 人
（参考）つながり支援活動（見守り）：件数	236 件		

【仮設住宅お茶っこサロン】

平成 29 年度は仮設住宅の談話室や、復興公営住宅の集会場を利用しサロン活動を行ってきた。仮設住宅やみなし仮設に住む世帯の 98%の方々が、復興公営住宅や再建された自宅へ転居された。それに伴い仮設住宅でのサロンに来られる方が少人数となり、次年度からは、平成 23 年より続けてきたお茶っこサロンを終了する仮設住宅が 5ヶ所ある。少人数の仮設住宅については、住民の意志を伺い、個別訪問による、つながりづくりに移行する。これまでの 7 年間、傾聴を基本に手芸や工作等、

楽しみを提供してきたお茶っこサロンであったため、感謝の言葉を多くの方から頂いた。震災から 7 年目にして、初めてボランティア活動の引き際の難しさを知った。今後は残っている仮設住宅のお茶っこサロンと復興公営住宅集会場でのお茶っこサロンとなるが、特に復興公営住宅に関しては孤独死の問題も多く懸念される。寂しさや孤独感を感じて生活されてる方が多い為、東部地区を中心に、市内復興公営住宅でのお茶っこサロンの開催が必要とされている。



【オープンスペース「ふいりあ」】年間利用者 3,719 名

平成 29 年度の特徴は、男性の利用が多いということである。卓球や将棋に興じている姿をよく見る。この特徴は、男性の閉じこもり防止の為、卓球大会や料理教室、つながりづくりの成果といえる。行き場のない方や福祉の支援が必要な方の居場所となっている。今後は、健康維持のための日課として「ふいりあ」を利用する、または様々な方との交流を求めている利用と、利用者自身の内面の変化があればよいと考える。

新規利用者が参加しやすい仕組みやイベントは、引き続き実施したい。



【つながり(見守り)支援活動】年間訪問件数 236 件

見守り支援活動は心理的援助分野の専門知識を持ったボランティアの参加により「つながりづくり」の活動が継続されてきた。グリーフワークが進み心理的危機状態から回復したと判断された方でも、家庭の事情が変わりグリーフケアを必要とされる方が増えている。「つながりづくり」は被災地復興支援事業の中でも、カリタス釜石の設立精神を象徴する活動でもあるため、対象者を見直し、グリーフケアを必要とされている多くの方々の所に訪問できるよう体制を整えていく。

【釜石市ファミリーサポートセンター事業】

助成金額：250,000円

育児の援助を行いたい会員（サポーター）と援助をお願いする会員（ユーザー）の紹介仲介を行う事業である。今年度から開始した事業であることから、両会員との顔合わせは積極的に行い、信頼関係を構築することに努めた。今年度のサポーター会員登録数15名、ユーザー会員登録54名（団体も含む）である。サポーター会員は、登録者数15名中、実質的な稼働人数は5名。高齢のため活動休止中の会員がおり、サポーターを増やすことが喫緊の課題である。また、全国的に子育て世代の居場所支援の拡がり、障がい児の預かりの相談もあり、サポーター会員のスキルアップと援助体制を充実させる必要がある。

援助実績

区 分	件 数
保育施設の時間外の子どもの預かり	62
保育施設までの送迎	1
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	0
学校の放課後の子どもの預かり	2
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	3
買い物などの外出の際の子どもの預かり	15
その他（イベント託児等）	34
合 計	117

【その他の利用（ゆいっこ広場）】

一般利用	平成29年9月～平成30年3月	利用人数18人 うち子ども8人
ファミリーサポートセンター 会員定例会	平成29年4月26日 平成29年9月26日 平成30年2月1日	参加人数9人 参加人数6人 参加人数6人
ゆいっこサポート預かり会場	平成29年9月～平成30年3月	利用人数11回(含団体) うち子ども19人

※所感

ゆいっこ広場は、子どもも親も安心して過ごせる場として機能している。実際、利用者から「リラックスできる。」との声もある。キッズコーナーがあることにより、子どもたちも自然と遊ぶ場と、大人との共用の場との区別が出来ているようだ。今後は、イベント開催場所、育児の援助場所として多くの方が利用し、機能を充実させたいと考えている。

【女性サポート事業】

今年度は被災地の子どもと女性をサポートする目的で、主に二つの事業を実施した。昨年度からの継続事業に加え、今年度は新しく男女共同参画サポーターや、男女共同参画に関心のある方々が集う場として「GEN・K せんにんのつどい」を発足させ、釜石市の男女共同参画の推進と活性化に寄与した。また、カリタス釜石独自で実施している緊急一時保護事業の利用者が社会復帰を果たし定住するなど、女性の自立に貢献した。

I：女性サポート事業について

- ① 女性リーダーの養成と多様性を取り入れた講座「男女の視点を取り入れ実践する 地域防災力アップ講座」釜石市との共催で開催。(H29年9月9日・イオンタウン2階タウンホール・参加者35名)
- ② 女性に対する暴力防止啓発や、若者世代を取り巻く現状と様々なリスクを回避するための啓発活動として「パープルリボンサポーター養成講座」を釜石市との共催で開催。(H29年11月12日・イオンタウン2階タウンホール・参加者37名)
- ③ 厚生労働省事業「よりそいホットライン」への協力。DV 専門ラインでの女性相談電話対応。計24回(2回/1ヶ月)
- ④ 内閣府事業「東日本大震災による女性の悩み・暴力相談事業」への協力。被災地の女性が抱えるあらゆる問題への個人面談による相談対応。
計33回(3回/1ヶ月・除く祝祭日)
- ⑤ 地域の男女共同参画サポーターの会として、サポーターや関心のある方々が、ざっくばらんに集う場として「GEN・K せんにんのつどい」を発足。釜石市との協働企画として計4回の集いを開催。他にも計4回の協力事業を実施した。

<GEN・K せんにんのつどい>

第一回：H29年6月28日(カフェブルーアシエーロにて11名参加)

第二回：H29年8月29日(カフェ Kikuyoshi にて8名参加)

第三回：H29年11月6日(カリタス釜石多目的ホールにて12名参加)

第四回：H30年2月6日(ミッフィーカフェにて9名参加)

<協力事業>

- 1、H29年9月8日(子どもの居場所を考えよう～映画上映会&アフタートーク
映画タイトル『さとにきたらええやん』上映)
- 2、H29年9月9日 地域防災力アップ講座への協力(受付等)
- 3、H29年11月12日 パープルリボンサポーター養成講座への協力
(イオンタウン入り口付近での啓発活動及び受付)
- 4、H30年3月3日 県との協働事業への協力(周知活動及び受付)

II：緊急一時保護事業について

今年度も昨年度に引き続き緊急一時保護事業を実施し、複数件の利用があった。これまでは沿岸部の限られた地域からの利用者が多かったのに対し、今年度は広く県内各地からの利用があった。この利用実績拡大の背景には、本事業(緊急一時保護事業)の実態について、周知の枠を拡げたことによるものと推察する。

また、緊急一時保護終了後の社会復帰に向けての支援にも注力し、日常生活指導や就業支援等、復帰に向けた準備を丁寧にするることによって、女性の自立に繋がった。特筆すべきは、女性の就業先の紹介や、子どもの転校までの時間を短縮するために転居先を提供するなどきめ細かい支援を実践することによって、新しい居住地への定住に繋がった。

【ボランティア派遣】※ 受益者数

釜石市社会福祉協議会（以下釜石市社協）や他団体、近隣住民などからの派遣要請に応じている。

2017年12月から2018年1月までの毎週火曜日 イオンスポーツクラブサロン 304名

4月16日 「イースターパーティー」 ※30名
5月25日 上映会「人生、いろどり」 ※19名
7月22・23日 「学びの部屋」 ※12名
7月26日 「子供上映会」 ※30名
7月27日 「上中島フェスティバル」 ※約2000名
8月6・7日 「学びの部屋」 ※4名
8月9日 「唐丹海あそび」 ※台風のため中止
8月11日 「唐丹ゆめあかり」 ※300名
9月1・2・3日 「釜石てっぱん映画祭」 ※380名
9月3日 「国際はまゆりトライアスロ大会」 ※約500名
9月8日 上映会「さとにきたらええやん」 ※100名
9月20・21・22日 「台風被害による後片付け」 ※18名
9月26日 「駒木、不動寺の台風被害による後片付け」 ※2名
10月7日 「ふれあい福祉まつり」 ※約350名
12月25日 「子供クリスマス映画会」 ※7名
その他 盆踊り、夏祭り、引っ越し、草刈りなど。

計 3,752名+304名で 4,056名



【イベント、セミナー等】※ 受益者数

- ◇ 「カリタス釜石料理教室」（年間8回） ※37名
- ◇ 「男の料理教室」（年間4回） ※19名
- ◇ パッチワーク教室（年間9回） ※53名
- ◇ お茶べり広場（年間10回） ※70名
- ◇ 4月16日「イースターパーティー」 ※30名
- ◇ 5月5日「そば打ち体験とお振る舞い」（中妻公民館） ※約15名
- ◇ 5月6日「そば打ち体験とお振る舞い」 ※約50名
- ◇ 6月8日「回想法」（日向アパート集会所） ※6名
- ◇ 8月4日「鶴住居保育園縁日」（京都暁星高校持込み企画） ※約200名
- ◇ 8月15日「只越夏祭り」（共催：釜石地区応援センター、カリタス釜石 協力：只越虎舞、釜石消防団第一分団第三部） ※約200名
- ◇ 9月9日「地域防災力UP講座」 ※40名
- ◇ 11月12日「パープルサポーター養成講座」 ※35名
- ◇ 12月9日「釜石こども食堂」 ※13名
- ◇ 12月10日「コサージュ作り」 ※16名
- ◇ 12月13日「クリスマス会」（大町4号復興住宅） ※5名
- ◇ 12月15日「クリスマス会」（天神復興住宅） ※20名
- ◇ 12月19日「クリスマス会」（只越1号復興住宅） ※13名
- ◇ 12月24日「クリスマス会」（田園調布雙葉高校持込み企画を含む） ※70名
- ◇ 12月25日「子どもクリスマス会」（田園調布雙葉高校持込み企画） ※34名

- ◇ 2月23日「苺大福作りとお抹茶の会」※8名
- ◇ 3月5日「草木染め体験」(カリタス南三陸ベース共催) ※13名



【こども食堂】 2017年12月9日 総動員数 50人 (受益者 13人)

今年度は運用シミュレーションを兼ねた企画として「こども食堂」を開催した。一団体のみの単独開催ではなく、釜石市内で活動する複数のボランティア団体を巻き込んだ形での連携協働を試みた。参加団体はカリタス釜石の他に、母子寡婦福祉団体協議会、更生保護女性の会、食生活改善推進委員協議会、男女共同参画サポーター有志、社会福祉協議会有志他、複数団体が参加した。今後、継続的に実施していく方向で釜石市ボランティア連絡協議会で協議を進める。

【多目的ホール及び厨房設備貸出】

施設利用では、住民自らによる文化活動での利用が継続されている。文化活動以外にも新規利用希望、問合せがある。実際に利用された方の感想は「駐車場があるので使いやすい」「多目的ホールやトイレが綺麗で嬉しい」等喜ばしい声もきかれた。一方、未だこのような場所があることを知らなかったという声もあるので来期に向けて周知活動にも力を入れていく。営利を目的としない利用については多目的ホールの利用は原則無料であるが、冷暖房を使用する期間は運営協力のための募金をお願いしている。

【ボランティアの受け入れ】

今年度も例年通り、長期休暇期間中(夏休み)の学生ボランティアの参加が多くみられ、仮設住宅、復興住宅でのお茶っこサロンを初め、市内保育園の夏まつり、地域のお祭りのお手伝いなど、幅広い活動を行った。冬休みや春休みの期間も、ボランティア参加者が一定数ある。

学生時代、学校ボランティアで参加した方が、卒業後に個人ボランティアとして参加するケースもあり、学生ボランティアの頃の活動が良い刺激になっているものと思われる。

更にベテランボランティア(リピーター)の長期滞在活動も継続している。

しかし、ボランティア参加人数は年々減少しているのも事実であり、やはり震災から8年目に入り、メディアでの震災の取り上げも減少し、風化しているのも原因の一つと思われる。

来年度より、ボランティア滞在期間に合わせ、毎月固定のサロンの開催以外にも、サロン活動を追加開催することを決定した。

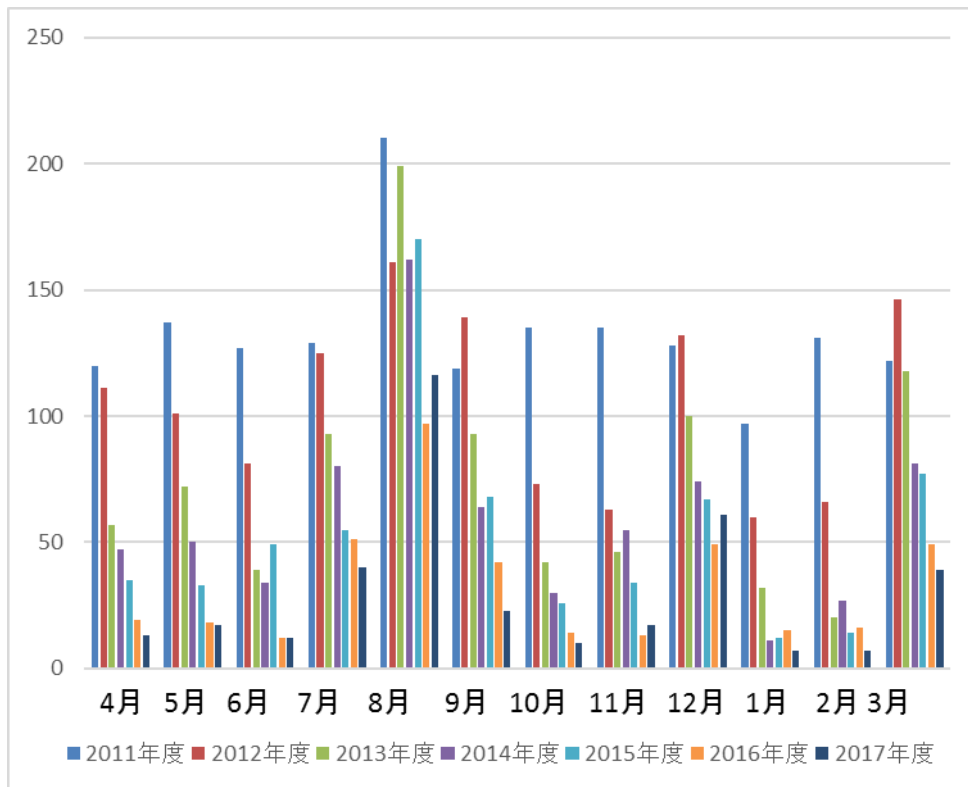
また、新規のボランティア受付は、ベテランボランティア滞在期間であれば、受け入れる方針とした。ベテランボランティアから活動を学ぶ意味もあることからこのような対応とした。これまで通り、ホームページ上からの申込みとする。

ボランティア受入数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
女性	2011年度	45	56	73	65	113	55	79	84	70	55	92	73	860
	2012年度	63	64	54	82	107	93	41	39	88	29	45	71	776
	2013年度	28	47	23	52	149	48	30	25	74	25	13	68	582
	2014年度	24	26	21	54	112	32	13	30	50	6	15	39	422
	2015年度	25	17	32	33	99	29	12	18	43	8	11	42	369
	2016年度	10	9	8	30	60	19	5	9	38	12	13	15	228
	2017年度	6	7	7	31	62	11	8	13	46	3	5	19	218
男性	2011年度	75	81	54	64	97	64	56	51	58	42	39	49	730
	2012年度	48	37	27	43	54	46	32	24	44	31	21	75	482
	2013年度	29	25	16	41	50	45	12	21	26	7	7	50	329
	2014年度	23	24	13	26	50	32	17	25	24	5	12	42	293
	2015年度	10	16	17	22	71	39	14	16	24	4	3	35	271
	2016年度	9	9	4	21	37	23	9	4	11	3	3	34	167
	2017年度	7	10	5	9	54	12	2	4	15	4	2	20	144
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計	2011年度	120	137	127	129	210	119	135	135	128	97	131	122	1590
	2012年度	111	101	81	125	161	139	73	63	132	60	66	146	1258
	2013年度	57	72	39	93	199	93	42	46	100	32	20	118	911
	2014年度	47	50	34	80	162	64	30	55	74	11	27	81	715
	2015年度	35	33	49	55	170	68	26	34	67	12	14	77	640
	2016年度	19	18	12	51	97	42	14	13	49	15	16	49	395
	2017年度	13	17	12	40	116	23	10	17	61	7	7	39	362
														5,871

(※1)到着日を基準日とする

(単位:人)



■物品販売事業

【期間】平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

【実績】

物品名	販売実績	仕入経費	収益金額
「さんりくわかめっ！」	3,349,405 円	2,140,544 円	1,208,861 円
(参考) 年間出荷総数 : 311g	1,939 袋	販売単価@800	
	: 113g	5,950 袋	販売単価@300

本年度も、三陸沿岸部の特産品であるわかめを塩蔵加工した「さんりくわかめっ！」の販売を継続している。今年わかめ販売の特設ページを設け、試験的にクレジット販売や少量パックの販売、調理の得意なボランティアの手を借りてレシピの掲載等も行った。

実績の内容は、無償提供（サンプル、寄付、景品等）や割引販売を含むため、実績数量と金額には差分が発生している。売り上げは、前年度の 98% の販売量を達成した。

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係る事業

事業名(定款に記載した事業)	・被災地復興支援事業
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動 ・見守り支援活動 ・他団体へのボランティア派遣 ・イベント・セミナー開催 ・多目的ホール・厨房設備の貸出 ・ファミリーサポートセンター事業 ・三陸沿岸部の特産品であるわかめを塩蔵加工した水産加工品「さんりくわかめっ!」の販売
実施期間	・平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・カリタス釜石(大只越町 2-4-4) ・仮設住宅団地及びみなし仮設住宅団地(10ヶ所) ・復興公営住宅 ・指定された場所
従事者の人数	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ 7 名 ・ボランティア・実数 2,062(名)
受益対象者の範囲及び人数	<ul style="list-style-type: none"> ・釜石市仮設住宅団地及びみなし仮設団地住民、その他釜石市住民・延べ約 26,000(名) <p>※この他、イベントについては数が数えられない企画もあるため、実際はさらに受益者がいます。</p>
事業費	37,127,583 円